

TOPICS

心エコー検査のご紹介受け入れを始めました

大阪南医療センターでは、心エコー検査単独でのご紹介が可能となりました。
検査依頼書をFAXで頂ければご予約をお取り致します。
検査後は、読影レポートを含めた検査結果を送付致します。
必要となる患者さんがいらっしゃいましたらお気軽にご紹介ください。



お問い合わせ先 大阪南医療センター地域医療連携室 TEL. 0721-50-4415 FAX. 0721-50-4416

講演会のお知らせ

第4回 大阪南医療連携講演会

参加費：無料

日時：2022年3月9日(水) 17:45~19:00

講演方法：オンライン(ZOOM)

Program

心臓と治療と効果

17:45-18:00 受付・ご案内

18:00-18:30

第1部 当院における下肢動脈硬化疾患に対するカテーテル治療

講師：山戸 将司 先生(循環器内科医師)

18:30-19:00

第2部 当院における心不全診療の現状

講師：長谷川 新治 先生(循環器疾患センター部長)

参加登録は不要です

QRコード、またはURLより直接ご参加ください

<https://us02web.zoom.us/j/88000923473>



広報誌「南窓」のご意見・ご感想をお聞かせください

広報誌「南窓」をお読みいただき、誠にありがとうございます。

お客様一人ひとりの声をより良い広報誌作りに活かしてゆきたいと考え、ご意見・ご感想を募集しております。

皆様からのご意見は、今後の改善を進める上で参考にさせていただきます。上記のURL または QRコードよりフォームにアクセスが可能です。

※ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承ください。ご意見全てにはお答え出来ない場合がございます。予めご了承ください。

ご意見・ご感想はこちら▶

<https://contact.osakaminamihosp.jp/>



大阪南医療センター 循環器疾患センター 24時間緊急対応 (ハートコール) 胸痛、呼吸困難、動悸等 循環器疾患が疑われる際には緊急対応連絡先へご連絡ください。直通 Tel. 0721-53-3200

独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター

地域医療支援病院 | 地域がん診療連携拠点病院 〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町2-1 Tel.0721-53-5761 Fax.0721-53-8904 <https://osakaminami.hosp.go.jp> 診察・検査の予約方法はこちら▶



皆さんとともに大阪南の地域医療を支える広報誌

2022年2月号 No.18

独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター
National Hospital Organization Osaka Minami Medical Center

診療科 NOW 救急科



能力と五感をフルに働かせて “今、しんどい”患者さんのために全力で対応

救急科医師 野阪 善雅 (のさか よしまさ)



「救急科の動画はこちら」

地域の「中核病院」として一致団結！

当院の救急科は2019年4月に発足し、それに尽力された前部長・村尾佳則先生からお声がかかり、移ってきました。以前は各科が救急患者さんを受け入れていたように聞いています。救急科は救急体制の拡充と、さらには救急災害医療の発展を目指して発足しました。ご存じのように近大付属病院が2025年移転予定ということもあり、今後、当院の果たすべき役割はさらに大きくなることは間違いなく、我々としても地域のみなさんと開業医の

先生方からの期待に応えられるよう全力を尽くす所存です。現在、救急科では一次救急、二次救急を担っています。個人的にはワンストップの救急医療が理想的だと考えており、その点、当院では、救急医として私が診て、どこに振り分けるのが最善であるかを判断、さまざまな疾患に対して各診療科のフォローアップにより適切な治療を提供することが可能な体制となっています。もちろん当院で診ることのできない

患者さんや該当する診療科のない場合は転院していただくこととなりますが、この場合は地域医療連携室が力を発揮してくれます。救急科は院内・院外との連携が不可欠であり、そこは大変スムーズに機能していると自負しています。また、外来との両立を考えたとき人材の確保は大きな課題だと思っておりますが、みんなで一致団結して救急医療を支えていることを実感しています。



救急科に必要なのは「時間に対する専門性」

私は救急専門医ですが、究極の救急医療は予防医療であるとの考えから産業医の資格も持っています。こうした広い見地に立ったとき、「救急医療とは時間に対する専門性」だと思に至りました。今、診療科は臓器別が中心となっています。そこに時間の概念はなかなか入ってきませんが、救急医療というのはファーストタッチに徹し、自分自身の能力

と五感をフルに働かせて患者さんのツボを掬い上げること。たとえば、胃が痛くて心筋梗塞のことがあればめまいがして脳卒中のこともありますので、できるだけ速やかに見落としなく、最適の診療科あるいは医療施設に送るのが仕事です。そしてそれこそが一次、二次の救急の肝であると考えています。

躊躇せずご紹介いただければと思います

なぜ救急医を選んだのかとよく聞かれるのですが、全身を診ることのできる医師として命を助け支える仕事をしたいと思ったからです。救命救急に携わる三次救急にこだわる救急医もいますが、私自身は、レベルに関係

なく「今、しんどい」人の疾患に向き合い、短時間かもしれないがその方を支え、満足していただける医療を提供することに大きなやりがいを感じていますし、これからもそうした医療を目指し続けます。ですので地域の先生方にも、「お困りごとがあれば躊躇せずご紹介ください」とお伝えしたいですね。専門がわかるときにはターゲットを絞って紹介していただくのが一番ですが、臓器別にこだわり過ぎると難しいケースもあると思います。そのようなときは急性期として私が診させて戴きますので、まずはご相談ください。繰り返しになりますが、あらゆる診療科・職種と連携しながら、地域のみなさんの安心のために職務を果たしていきたいと考えています。



何より患者さんの立場で お困りごとについて共に考え、**人生**を支える



「医療福祉相談室の動画はこちら」

医療福祉相談室長・患者支援室長・主任医療社会事業専門職 **萬谷 和広**

まんたに かずひろ

身寄りなし・核家族化・高齢化特有の相談が増加

医療福祉相談室では、社会福祉士が患者さんやそのご家族の相談にのり、お困りごとの解決や緩和を図っています。有資格者7名というのは人材的に恵まれており、手厚きめ細やかな支援が特徴です。

患者さんのお悩みは医療費や生活費など経済的なこと、社会復帰、療養場所や療養のしかた、家族関係、心理面など実に多岐に渡ります。近年では、高齢の患者さんが入院されると、残されたお一人が家事もままならず生活に困るとか、独居の方で意識レベルの

落ちていた患者さんの医療同意の問題など、身寄りがない方や、核家族化・超高齢化を反映した支援が急激に増えてきました。それに伴い、今後のミッションとして、医療だけではなく介護・福祉・生活とあらゆる機関との地域連携の強化を最重要と位置付けています。必然的に関わる人物が多くなりますので、コロナ収束後には、顔を合わせて意見や情報を交換する機会を積極的に設けていきたいと考えています。



住民の方々の声を**支援の現場**へ

もうひとつ推進したいのは、地域の方々の声を聞くこと。コロナの前には、支援がなかなか行き届かない河内長野の山間部にお住まいの方々を訪ね、心配事や望むことなどをインタビュー調査しました。コロナの落ち着いた際にはそのような活動を再開し、また支援提供者の集まる場に住民の方を招くなど、リアルで率直なご意見を聞くことで、

医療と退院後のサポートにつなげていければと思っています。

掛かりつけ医の先生方には、治療や入院で当院を利用される方が何か不安を漏らされるようなことがあれば、どうぞ私たちにその声を届けてくださいとお伝えしたいと思います。

